

2025

北鹿の学び舎から④

— 学校紹介・活躍する修了生 —

機械産業支える人材を

生産機械技術科

秋田職業能力開発短期大学校に設置されている科の紹介として、第1回目の住居環境科に続き、今回は生産機械技術科を紹介させていただきます。

「生産機械技術科」という

名称は、勉強する内容が想像に具現化するものです。機械ににくいかもしれませんが、いわゆる機械科です。当科は、パソコンを使って機械装置や製品を設計し、部品を加工・計測し組み立て、それを制御して動かすプロセスを、実習と座学を通じて習得します。それにより、次世代のものづくり産業を支える高度な機械エンジニアを育成することを目的としております。

当科の3つの基幹技術は、機械設計技術、機械加工・測定技術、制御技術です。機械設計技術とは、部品や筐体（きょうたい）などの形や仕組を考え、アイデアを図面

秋田職業能力開発短期大学校

生産機械技術科

横山 雅紀

当科の魅力は、目に見える形で成果を実感できる点です。設計した機械が動き、課題解決を経験できるため、達成感を得られます。技術の進歩に伴い、新しい挑戦が常に待っ

ているため、飽きることがありません。

また当校では2年間習得した技能・技術の集大成として、2年生の1年間をかけて「総合制作実習」という授業にて一連のものづくりを経験、習得します。過去の総合制作実習の成果には、旧小坂鉄道で活用されているレールバイクや昨年の大館圏域産業祭で人気のミニ鉄道などがあ

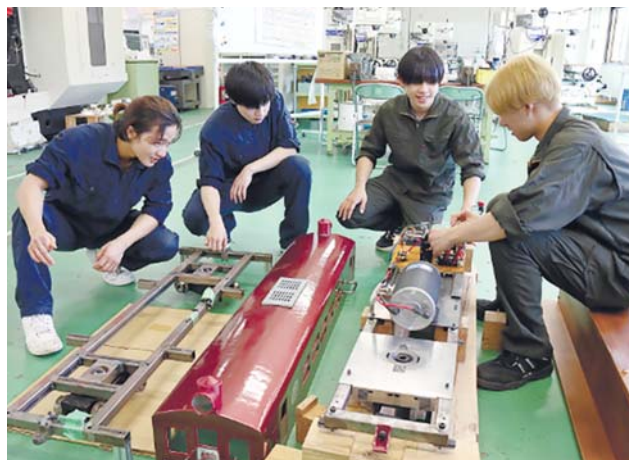
ります。今年のテーマは、制作物をただ形作るだけではなく、制御技術を活用し、動き・働きを与えるような課題に取り組み内容が提案されております。具体的には、地元企業との共同研究で、実際に製品を生産する自動化ラインのミニチュアモデル（展示品）の制作を試み始めております。これは地元に着目した能力開発セミナーや学校求人

打ち合わせを通して、地元企業との連携や会話を続けてきたことにより相談いただけた内容です。

AIやDX、スマートファクトリーといった技術革新が進む製造業では、課題解決が一つの技術だけではなく、技術の枠組みを超える融合した技術力が求められております。当科の総合制作実習をはじめとする授業では、基幹技術についてその領域のみで教育するのではなく、様々な技術分野とのつながりや連携を意識し、次世代の課題解決ができる人材育成を行っております。また、技能・技術の習得はもちろんですが、機械系の実践技術者は多様な業界で活躍するため、企業人としての土台になる人間性も重要です。挨拶や報告・連絡・相談、危険に対する態度など組織が求める人材としての育成に力を入れ、人手不足が進んでいるこの地元優良企業への技術者の供給の一端に、これからも貢献していこうと考えております。



パソコンで設計の課題に取り組んでいる様子。分からないところは協力



総合制作で取り組んでいるミニ鉄道制作。今年は青ガエル筐体とレール制作予定